

【解説】

神戸大学 ICT 戦略 2.0 ー 行動計画 ー

情報基盤センター 今井 昭史

1. 神戸大学 ICT 戦略 ICT 戦略 2.0 の制定

神戸大学ICT戦略2.0(以下、「ICT戦略2.0」という。)制定の経緯については、蛭名邦禎前情報基盤センター長が「ICT成熟度の高い大学へー「神戸大学ICT戦略」の改定にあたってー」(MAGE Vol.32, No.40)において具体的に述べられていますので、ここでは割愛させていただきますが、国際的高等教育機関としての責務を継続的に果たすため、ネットワークをはじめとした情報基盤、ならびにこれらを効果的に利活用する組織的・人的基盤を確立するための基本方針として、①国際基準のICT環境を持った大学、②ICTの本格的な活用による新たな大学経営モデルの創出、③ICT成熟度向上の推進の3つの柱を掲げています。この基本方針の下、具体的取組として神戸大学ICT戦略行動計画(以下、「ICT戦略行動計画」という。)がまとめられましたが、本稿では、その経緯や内容について述べさせていただきます。

2. ICT戦略行動計画の検討

ICT 戦略行動計画策定に当たっては、ICT 戦略 2.0 の策定と並行し情報企画委員会のメンバーだけでなく情報基盤センター内の教職員と学内有識者の間で、会議形式だけでなくフリーセッションでの議論も含め時間をかけた意見交換が行われました。ここでは、“ICT 戦略とは何か? ”、“ICT はあくまで目的を達成するための「手段」であり、ICT そのものが目的となることはなく、教育、研究、経営等の理念を達成するための手段として、ICT を用いて何ができるかということである。”との共通認識をもち、その役割について議論が行われました。その結果、①既神戸大学 ICT 戦略(「以下、ICT 戦略 1.0」という。)の進捗状況の検証、②現状分析、③革新的・先進的取組、④点検・評価・改善の4点について議論を進めてまいりました。

2-1. ICT 戦略 1.0 の進捗状況の検証

ここでは、ICT 戦略 1.0 で提言している事項について、進捗状況の検証を行いました。実施できているものとしては、ネットワーク基盤やユビキタス環境の充実及び各種サービス提供の基盤となる教育研究用計算機システムの更新、さらに人事・給与システム、会計業務システム、教務システム、図書館システムの更新が行われました。未実施のものとしては、テレビ会議や Web ポータル、全学規模の e-learning システムなどが挙げられます。ネットワークや認証等といった基本的な基盤はすでに ICT 戦略 1.0 で整備されているため、今後はその維持と充実を前提とし、ポータルサイトの構築等の新たな基盤整備の必要性が検討されました。

2-2. 現状分析

現状分析においては、①情報システムの現状・問題点・将来展望、②IT 関連資産の保有(取得)状況、③組織(意思決定機関・予算・企画)の現状・課題、④人材育成の4点にフォーカスし、それぞれどのような問題点等があるかについて議論されました。

1)情報システムの現状・問題点・将来展望では、全学的なICTマネジメントに必要な見える化やPDCAサイクルの設計等のため、ネットワークシステム、人事・給与システム、会計業務システム、病院管理システムについて、それぞれ担当部署から、現状(概要・目的・コスト(予算・人員))・課題・今後の計画について、情報企画委員会において発表いただき、共通認識をもつことから始めました。また、その他のシステムにおいても、

それぞれ各担当部門から、現状・問題点・将来展望について意見を伺う形で情報収集しました。

- 2) IT 関連資産の保有(取得)状況では、ICT 関連の投資状況が把握できていないといった要望に答えるため、IT 関連資産状況の調査や会計業務システムの利活用による経営の可視化と高度化の必要性が検討されました。
- 3)組織(意思決定機関・予算・企画)の現状・課題では、経営戦略と IT 戦略の整合性の問題や ICT 施策の決定と実施に向けた予算獲得方法の検討、さらに企画部門と運用部門の役割分担、教育関連組織や経営部門との連携の必要性が指摘されました。
- 4)人材育成では、情報部門に求められる役割が、従来のシステム基盤整備や運用・保守といったものから業務改革の提案・推進といった戦略実現に必要とされるシステムの企画・提案へと変化していることへの対応として、ICT 知識及び企画・立案能力を併せ持つ人材の必要性が指摘されました。また、業務部門との関連においても、業務部門・情報部門それぞれに「ICT がわかる業務要員の養成」「業務がわかる ICT 要員の養成」が重要との指摘がありました。さらに、専門職のキャリアパスの確保についても指摘されました。

情報システム部門の人材育成は、本学に限ったことではなく企業でも重要なテーマとして認識されていると思います。本学では、事務系のシステムの維持管理は、多くが事務職員で担当しております。1980 年代のワードプロセッサに始まり、現在の iPad 等のタブレット型コンピュータにいたるまで、多くの人がこれら IT 機器を普通に使いこなしてきました。しかし、企画力を含め情報部門に求められる能力を持った人材となると、戦略的な人材育成の取組が遅れているため充分ではありません。今後、どのようにシステム化するかが重要な課題になると考えています。

2-3.革新的・先進的取組

革新的・先進的取組においては、現状分析と併せ、⑤教育・研究・共通基盤における ICT の利活用による高度化、⑥システム基盤におけるシステムの融合化、⑦経営・業務における ICT の利活用による効率化・高度化、⑧社会的要請への対応などの課題について検討が行われました。

- 1)教育・研究・共通基盤における ICT の利活用による高度化については、ネットワーク基盤、認証基盤、充実したユビキタス環境等の情報基盤の整備維持を基本とし、今後検討する事項として、〇〇のための e-learning (〇〇とは、目的をもって導入することの重要性を表しています。)、モバイルを利用した学生サービス・教育、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用等について提案されました。また、電子ジャーナル、電子化辞書・辞典や学生用電子化テキスト等の電子的学術情報基盤の整備・維持も提案されました。
- 2)システム基盤におけるシステムの融合化については、すでにネットワーク基盤システムやユーザ認証システム等のシステム基盤は整備されているものの、その基礎情報となる、人事・給与システムや教務システム等のコード体系が統一されていないこと、さらには大学構成員の定義が明確ではないことなどを受け、業務の可視化・効率化の検証を含め、システム間融合の必要性が指摘され、現在「業務等システム融合化検討 WG」を立ち上げ検討を開始しています。
- 3)経営・業務における ICT の利活用による効率化・高度化では、会計業務システムにおける管理会計機能の充実、クラウドサービスの利用、全学ポータルサイトの構築、ペーパーレス会議の導入等が検討されました。
- 4)社会的要請への対応として、個人認証の強化、監査証跡の履歴管理、ライセンス管理の強化等のコンプライアンス対応、緊急時連絡システムの構築等の危機管理対応、IT 環境変化対応のための情報セキュリティポリシーの見直し、ステークホルダーからの要求や国際化に対応するための情報発信、さらには CO2 削減等の環境対策の必要性が指摘されました。

教育や経営といった分野での ICT 施策を検討・実施するうえで欠かせない要件として、情報部門以外の組織との連携であると考えます。全学的な展開を見据えた施策であればあるほど、これら連携をどのような形で実現していくかが鍵となるのではないのでしょうか。

2-4. 点検・評価・改善

点検・評価・改善では、情報委員会等により各施策の進捗状況を管理し、点検・評価・改善することで目標達成に繋げる仕組みを構築することの重要性が指摘され、ICT 戦略行動計画に明記することとなりました。

3. ICT 戦略行動計画の策定

上記2. の検討結果に基づき、ICT 戦略 2.0(行動計画)に記載した7項目について具体化するとともに、全学的視点に立った意思決定に基づく推進やWG 設置等の推進体制を含めたICT 戦略行動計画が、情報企画委員会及び情報委員会の議を経て制定されました。また、各種個別案件を第二期中期期間中の実施スケジュールとしてまとめています。

以上